

議会運営委員会書記録

令和6年(2024年)11月25日(月)②
第3委員会室

◎ 出席者

- ◇委員長 伊藤 治
- 副委員長 久保田 茂
- 委員 大和田 哲、大田 ちひろ、和泉田 宏幸、小林 成好
横井 聖美、清田 巳喜男、後藤 孝江、白川 秀嗣
松島 孝夫
- ◇議長 島田 玲子
- ◇委員外議員 瀬賀 恭子副議長
- ◇傍聴議員 なし
- ◇事務局 松村局長、藤浪課長、倉田主幹、東條主幹、高橋主幹、村田主幹
長谷部主査

○ 開 会 (1 4 : 0 0)

- ◇ 議長あいさつ

○ 議 事

- ◇ 議会活性化等について

1 議会のICT活用について

- ・ オンライン会議の導入を目指す取組について

★委員長 本項目については、午前中の会議でもお伝えしたように、このあと休憩に落として、休憩の中で、オンライン会議を体験していただきたいと考えている。オンライン会議の体験については、これまでZOOMのアプリを使用してきたが、本項目にかかる協議の中で、有償版に移行したLINE WORKSを活用していくことで決定している。そのため、本日は、LINE WORKSの機能を使用してオンライン会議の試行を実施する。各委員においては、操作方法を体験していただくとともに、画面の映り方などを確認していただきたい。それでは試行を実施する。

○ 休 憩 (1 4 : 0 2) → オンライン会議の体験。

○ 開 議（14：24）

- ★委員 長 休憩中に実施したオンライン会議の体験を通しての感想や、見えてきた課題についてご意見があれば伺いたい。
- ☆和泉田委員 会議中、ほかの方から私に対して「天井しか映っていない」との指摘を受けたが、自身の端末ではしっかり自分の顔が枠内に収まっていた。なお、機器はスマートフォンを使用していた。機器が異なることによって、各画面の映り方が変わってくるのではないか。
- ☆横井委員 私もスマートフォンを使用し、会議に参加していたが、パソコンとスマートフォンでは、操作画面が微妙に異なるようで、事務局の説明どおりにいかない場面があった。また、ほかの委員より、私の画面が映っていないとの話があったが、こちらはほかの委員の映像と音声はしっかり入っていた。
- ☆大田委員 私はパソコン端末を使用していたが、事務局の説明と実際の画面表示が異なる状況が生じていたため、操作に慣れる必要があると感じた。また、採決時において、挙手の有無を瞬時に判断することの難しさを感じた。
- ☆白川委員 体験を通して、これまで使用していたZOOMとLINE WORKSの使い勝手の違いを感じた。そのため、操作に慣れる必要性を感じた。
- ☆後藤委員 委員長から意見を伺う際に、対面では各委員の状況がわかるが、オンライン上では意見の有無が把握しづらいと感じたため、実際に委員会を行ううえでは工夫が必要だと感じた。ZOOMでは画面上に挙手の表示ができるが、LINE WORKSではその機能がない。
- ☆松島委員 1画面に映る人数が端末によって異なるが、いずれにしても画面をスワイプすれば、全員の状況を確認できるため、スマートフォンでも十分対応できると感じた。また、途中通信が不安定な状況になるなど、携帯電話回線を活用したモバイルデータ通信の脆弱性を感じた。光回線等であれば、通信は安定すると思うが、セルラーモデルはモバイルデータ通信を活用しているため、災害時、セルラーモデル端末で委員会を実施することは難しいと感じた。
- ☆小林成好委員 複数の委員が同時に発声した場合、1つの音しか拾わないようであるため、発言する場合は、まず挙手して、発言希望者が複数の場合は、委員長が順番に指名するようにするなど、工夫していく必要性を感じた。

★副委員長 画面分割していると、瞬時に挙手している人を判断することが難しい。

★委員長 進行している側とは、挙手が判断しづらいため、挙手の仕方についても工夫が必要であると感じた。今回いただいた意見については、事務局でまとめ、次回以降の議会運営委員会で配付させていただく。

→ その他発言なし

○ 閉 会（１４：３５）